

## 今週の為替相場見通し (2019年6月10日)

| 総括表      |      | 先週の値動き |                 |        | 今週の予想レンジ        |  |
|----------|------|--------|-----------------|--------|-----------------|--|
|          |      | 注      | レンジ             | 終値     |                 |  |
| 米ドル      | (円)  |        | 107.81 ~ 108.63 | 108.23 | 107.00 ~ 109.00 |  |
| ユーロ      | (ドル) |        | 1.1159 ~ 1.1348 | 1.1332 | 1.1250 ~ 1.1400 |  |
| (1ユーロ=)  | (円)  |        | 120.80 ~ 122.70 | 122.62 | 121.50 ~ 124.00 |  |
| 英ポンド     | (ドル) |        | 1.2611 ~ 1.2763 | 1.2737 | 1.2650 ~ 1.2820 |  |
| (1英ポンド=) | (円)  | *      | 136.56 ~ 138.17 | 137.80 | 136.50 ~ 138.50 |  |
| 豪ドル      | (ドル) |        | 0.6928 ~ 0.7022 | 0.7000 | 0.6900 ~ 0.7100 |  |
| (1豪ドル=)  | (円)  | *      | 74.97 ~ 75.91   | 75.74  | 74.00 ~ 77.00   |  |

(データ) 先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

### 1. 米ドル

為替市場第一チーム 森田 大貴

(1) 今週の予想レンジ: 107.00 ~ 109.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

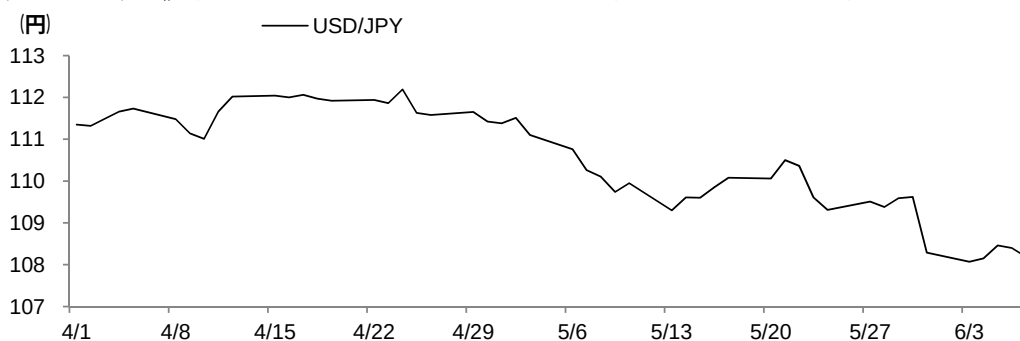
先週のドル/円相場は、108円台前半を中心に揉み合う展開。週初 3日に108円台前半でオープンしたドル/円は、米5月ISM製造業景気指数や米4月建設支出の弱い結果に加え、ブラード・セントルイス連銀総裁が近い将来の利下げの可能性に言及したことからドル売りが加速すると、107.90円割れまで下落。4日も、世界的な貿易戦争激化への懸念や米利下げ観測の高まりが意識される中、108円台前半で上値重く推移。翌5日、米5月ADP雇用統計が市場予想を大きく下回り、米金利低下と相俟ってドル/円は一時週安値となる 107.81円をつけた。その後はナバロ米国家通商会議委員長やグラスリー米上院議員からメキシコの関税を回避する方向の発言が聞かれると、108円台半ばまで反発。しかし翌6日アジア時間、米国とメキシコは関税と移民で合意できずとの報道を受け、欧州時間にかけて108円付近まで下落したが、NY時間には米政府が対メキシコ関税発動の先送りを検討しているとの報道を受け、108円台半ばまで上昇。その後、108円台前半まで下落する場面も見られたが、翌7日、欧州株続伸する中、一時週高値となる 108.63円をつけた。注目された米5月雇用統計は、非農業部門雇用者数が市場予想を大幅に下回り、また平均時給も予想を下回ったことからドル売りが強まり107.88円まで下落。しかしその後は米金利の下げ止まりや米株高にサポートされ反発し、108.23円で越週した。

今週のドル/円相場は、上値の重い展開を予想。先週は、パウエルFRB議長を始めFedメンバーから利下げを示唆する発言が相次ぐ中、市場は年内3回の利下げを織り込む動きとなっており、ドル全面安の展開。6月18、19日にFOMCを控えるが、7日に発表された米雇用統計も市場予想を大幅に下回り、利下げを正当化する結果となった。これを受け、DXYも年初からのトレンドラインや200日線といった重要なサポートレベルまで下落。週末、トランプ大統領が10日に予定されていたメキシコへの追加関税を見送ったことを受け、週明けのドル/円はリスクセンチメントの改善から、株高、クロス円の上昇とともにまずは戻りを試す展開となるだろう。一方、足元ではドル主導の相場の動きとなっており、また108円台後半からは売り遅れた本邦実需の売りが想定され、ドル/円の上値も限定的か。金利市場では既に利下げ織り込みが相応に進んでおり、金利低下余地は限定的であるものの、為替市場ではこれまで各国中銀のハト派化等を背景にドル高トレンドが継続していたことから、米利下げが意識される状況下ではドル売りの流れが継続すると考えられ、ドル円の上値も上値の重い展開が継続しよう。

### (3) 先週までの相場の推移

先週 (6/3~6/7) の値動き:

安値 107.81 円 高値 108.63 円 終値 108.23 円



## 2. ユーロ

為替営業第二チーム 岡本 明生

(1) 今週の予想レンジ: 1.1250 ~ 1.1400 121.50 ~ 124.00 円

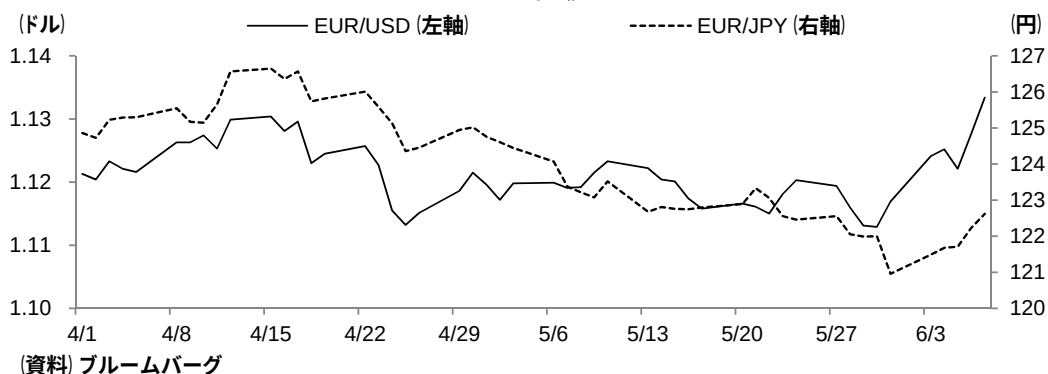
## (2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週のユーロ/ドル相場は上昇する展開。週初3日に1.11台後半でオープンしたユーロ/ドルは一時週安値となる1.1159をつけたが、米経済指標の弱い結果やブラード・セントルイス連銀総裁の発言を受けてドル売りが強まると1.12台後半まで上昇。翌4日はドルが買い戻される展開の中でユーロ/ドルは1.12台前半まで反落する動きがみられたが、米金利低下を受けたドル売りによって1.12台後半を回復した。5日には、米5月ADP雇用統計の市場予想を大きく下回る結果にドル売りが進むとユーロ/ドルは1.13台に乗せたが、米国がメキシコに対して関税を取り下げる見方が強まったことでドルが買われると1.12台前半まで反落した。6日は、ECB政策理事会が市場予想ほどハト派な内容でなかったことからユーロ買いが先行すると、ユーロ/ドルは一時1.1309まで上昇。7日のユーロ/ドルは1.12台後半で方向感に乏しい値動き。注目の米5月雇用統計は予想を下回る弱い結果となり、ドル売りが広がってユーロ/ドルも週高値1.1348まで上昇。ユーロ/円も週高値122.70まで上昇した。しかし、その後は方向感なく高値圏でもみ合い推移となり、結局対ドルで1.1332、対円で122.62円レベルで越週した。

今週のユーロは、底堅い展開を予想する。米ファンダメンタルズの悪化は顕著で、来週の米FOMCでの利下げ期待は一段と高まる状況。今週はブラックアウト期間につき当局者発言の機会はないものの、市場の期待感是不変だろう。一方、ECBは先週TLTRO第3弾を発表しているが、設定金利が従前のファシリティよりも高く設定されており、中銀スタンスとしてはFedの方がハト派シフトが鮮明だろう。斯かる中、積極的にユーロを売る材料もなく、今週は特段目立った指標の発表も控えていないことから、1.13台前半では底堅く推移すると予想する。12日(水)にドラギECB総裁の講演があるが、任期満了まであと4か月程度となった同氏のECB内での発言力は低下していきいていると思われ、相場が動意付くとは考えにくいだろう。

## (3) 先週までの相場の推移

先週(6/3~6/7)の値動き: (対ドル) 安値 1.1159 高値 1.1348 終値 1.1332  
(対円) 安値 120.80 高値 122.70 終値 122.62





## 4. 豪ドル

為替営業第二チーム 森谷 友一

(1) 今週の予想レンジ: 0.6900 ~ 0.7100 74.00 ~ 77.00 円

## (2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル相場は上昇する展開となった。週初3日に対ドルで0.69台前半、対円では75円台前半でオープン。米国が豪州からの輸入品に対する関税を検討したものの見送りを決定したと報じられたことや、中国5月製造業PMIが市場予想を上回ったこと等から豪ドルが買われる展開となり0.69台後半まで上昇。ブラード・セントルイス連銀総裁が利下げの可能性を示唆したことでドル売りが進むと、対ドルで0.69台後半まで買われた。4日はRBA理事会では市場予想通り政策金利が1.25%まで引き下げられたものの、声明文において追加利下げを示唆する文言が含まれなかったことで、対ドルで一時0.6993まで上昇もすぐに上げ幅を削る動きとなった。その後、ロウRBA総裁が「追加利下げを見込むのは不合理ではない」と発言し、豪ドル売りが進む局面も見られたが、パウエルFRB議長のハト派発言を受けリスクオンの流れとなり、対ドルで0.70台前半、対円では75円台後半まで上昇した。5日は豪1~3月期GDP(前期比)が市場予想を下回ると、豪ドルが下落する局面もあったが反応は一時的にとどまり、その後、ニュージーランド中銀総裁補が近い将来の利下げ観測を牽制し、NZドルが上昇すると、豪ドルも連れ高となり、対ドルで0.70台前半、対円では一時週高値となる75.89円をつけた。しかし、豪金利低下基調が続く中で反落に転じ、対ドルで0.69台後半まで下落した。6日は「米国が対メキシコの関税発動先送りを検討」との報道にリスクオンの展開となり0.69台後半での底堅い推移が継続。7日は弱い米5月雇用統計の結果を受けドル売りが進むと対ドルで一時週高値となる0.7022まで上昇。その後はやや水準を戻し対ドルで0.70台前半、対円では75円台後半で越週した。

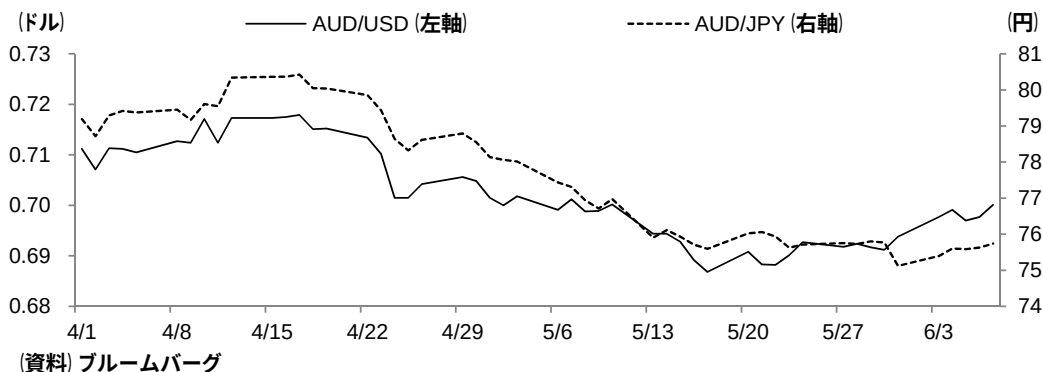
今週の豪ドル相場は上値の重い推移を予想する。先週開催されたRBA理事会では市場予想通り政策金利を25bp引き下げ、過去最低の1.25%とすることを決定。理事会後のロウRBA総裁の会見では、現在より低い政策金利を想定することは妥当ではないとは言えない」との発言もあり、今回限りではなく今後も経済動向次第では追加利下げの可能性があることが示唆され、金利先物市場においては年内に残り2回の追加利下げを織り込む動きも一部で見られている状況。先週の豪ドルは底堅い推移となったものの、利下げ決定を受けて一旦ショートポジションの巻き戻しが入ったことによるところも大きいと考えられ、豪ドル買い地合いはさほど長続きするものとはならないと予想。今週は13日(木)に豪5月雇用統計の発表が予定されており、冴えない結果となった場合には一段の利下げ観測の高まりから豪ドル売りが進む局面も見られそうだ。一方で、米国についても景気鈍化懸念やFRB高官によるハト派発言を受けて利下げ観測が足元で高まっており、ドルも売られやすい地合いであることを勘案すると、対ドルで豪ドルが一方的に値を下げることも考えづらい。しかし、引き続き米中通商協議への警戒感等からリスクセンチメントも決して良好とは言えない状況下、リスクセンチメントにより左右されやすい豪ドルの方が売り圧力が強まりやすい展開を予想する。

## (3) 先週までの相場の推移

先週(6/3~6/7)の値動き:

(対ドル) 安値 0.6928 高値 0.7022 終値 0.7000

(対円) 安値 74.97 高値 75.91 終値 75.74



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。